

W124

初代
Eクラス

W124 のステキ Point !

メルセデスのトップに君臨する W124 は機械としての完成度の高さが最大の魅力。硬く作られたボディにゴムブッシュなどの緩衝材を最適に組み合わせることによって、消耗品さえ交換していけば半永久的に乗り続けられる構造となっている。また分解整備できる部分が多いので、高価なユニットごとの交換となるモデルに比べれば維持においてのメリットは大きい。メンテ後の効果が体感しやすいことから、メンテナスそのものを趣味とするユーザーも多く、「ベンツ趣味」の王道と言っても過言ではない。現代の道路でも何ら不安なく走れる基本性能の高さを持つのも見逃せない事実だ。



燃料系パーツのコンディションに注意!

快調の Point !

R20ともなれば消耗品の交換はそれなりに進んでいると思うが、パーツによっては二度目の交換時期を迎えている箇所が出てきているはずだ。これまで通りきっちり手を入れてやれば、まだまだ快調な走りを実現できるので、定期的な交換と点検は怠らないようにしたい。

これから注意したいのは燃料系のパーツのコンディション。KEジェトロニック式を採用する M103 エンジンは、正しい燃圧を保つことが重要だ。フューエルポンプ、フィルターは基本として、パーツ自体は小さいが意外に高価なフューエルアキュムレーター、プレッシャーレギュレーターあたりも交換しておきたいところ。さらに燃料を各気筒に分配するフューエルデスビも交換しておく。燃料系はパッチリだ。しかしこのパーツは約25万円もするのがネックで、分解整備ができないのがツライところ。取材先のメカニックが分解整備

知らない間に塗装の劣化は
かなり進んでいる



まったりとしたフィーリングを持つ SOHC の直 6 ユニットは KE ジェトロニック式を採用している。整備性が良いのも魅力のポイント。

Topics R20 GERMANCARS MAINTENANCE

スロットルアクチュエーターの清掃は乾拭き



スロットルアクチュエーターのフラップ部分の周囲にカーボンが蓄積すると、フラップが完全に閉じることができずにアイドリング不調の原因になることがある。対策としては付着したカーボンをキレイに取り除けば簡単に直るのだが、その時は必ず乾いたウエスを使うこと。エンジンコンディショナーなどを使うと新たなトラブルの原因になるので、DIYメンテの際には注意しておきたい。

を試みたがやはり無理だったそう。一度交換しておけば当分は持つので、大切な愛車のためにも予算を確保しておきたい。

W124 でいま課題となっているのが塗装のコンディション。機関連面が絶好調でも、クリア層にクラックが入っているクルマが多い。それに費用はかかるが、長く乗るならぜひオールペンをして輝くボディを手に入れたい。ボディ自体は基本的に頑丈だが、疲れが出てきているポ



燃料を各気筒に分配する役割を持つフューエルデスビだが、このパーツの不良が増えている。分解整備ができないため交換するしかない。

イントがいくつかある。セダンの場合はトランクルーム。スペアタイヤが収まる両脇に空間があり、そこに水抜き穴があるのだが、サビなどによって腐食が進んでいることがある。バッテリーの下あたりも要注意ポイントだ。ワゴンはカーゴルームの両サイドにあるクォーターガラスの縁が腐食して、雨漏りを起こすケースが多い。塗装のついでにこのあたりもチェックしておく、この先も長く乗り続けることができるだろう。



どんなに調子の良いクルマでもボディのクリア層にクラックなどが入っていることが多いという。今後の課題はボディのメンテなんだ。